

この資料は千葉市美術館ボランティアが作成しました

美術館ボランティアが選ぶ 千葉市美術館コレクション展

千葉市美術館では、2003年4月より、“美術館を楽しもう”をモットーに、美術館ボランティアによる活動が行われています。ギャラリートークや鑑賞リーダー（児童・生徒の団体鑑賞のためのガイド活動）などを、美術館学芸員と共に展開しておりますが、本年度には新しいメンバーも加わり、新たな段階を迎える事になりました。

『美術館ボランティアが選ぶ千葉市美術館コレクション』展は、千葉市美術館が大切に所蔵している市民の文化財産を市民の皆さまに広く知っていただき、「より開かれた身近で親しみの持てる美術館」となって欲しいという願いをこめて、千葉市美術館の初めての試みとして、展示作品の選定から作品紹介のリーフレットやポスター図案の作成、展示レイアウト、会場案内といった全ての分野をボランティアが中心になって進めるものです。

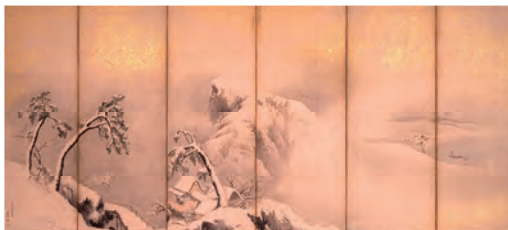
「私がもう一度会いたい、皆さまに是非お見せしたい」作品を、約7千点の所蔵品の中から57点を投票で選びました。そのトップ5は、次の通りです。



喜多川歌麿「納涼美人図」 寛政期(1789-1801)



棟方志功「二菩薩釈迦十大弟子」(部分)
昭和14年(1939)



円山応挙「秋月雪峡図」 天明6年(1786)



鏑木清方「薫風」
大正7年(1918)頃



浜口陽三「19と1つのさくらんぼ」
昭和40年(1965)

- 1 喜多川歌麿の「納涼美人図」は、当館が世界に誇る肉筆浮世絵
- 2 棟方志功の「二菩薩釈迦十大弟子」は、サンパウロ・ビエンナーレなどで大賞を受賞した棟方の最高傑作版画と言われる作品
- 3 円山応挙の「秋月雪峽図」は、応挙の最盛期における水墨画六曲一双屏風
- 4 錦木清方の「薫風」は、紫陽花とアザミが咲き並ぶ板橋に佇む若い女性に薫風が心地よく当たるといふ図様の、清方壮年期の美人画大作
- 5 浜口陽三の「19と1つのさくらんぼ」は、千葉が誇る銅版画家による神秘すら感じさせる力作

江戸から現代まで、広い範囲にわたる名品の数々は、これまで千葉市美術館に来られる機会のなかった方々にもきっと楽しんでいただけるものと確信しております。

会 期	平成18(2006)年10月17日(火)～12月3日(日)
会 場	千葉市美術館 8階展示室
主 催	千葉市美術館
開館時間	月～木、日曜日 10:00～18:00 金、土曜日 10:00～20:00(いずれも入館は、閉館30分前まで)
休 館 日	第1月曜日(11月6日)*会期中の休館日はこの日だけ
観 覧 料	大人 200(160)円 高校・大学生 150(120)円 小・中学生は無料 *同時開催の『浮世絵に見る葉と病い』展[10/29(日)まで]と共通料金 『浦上玉堂展』[11/3(金・祝)～12/3(日)]チケットをお持ちの方は無料 *10/14(土), 15(日), 18(水)は市民の日、無料開放日



関連企画

[みんなで選ぼうわたしの1点]

作品とより深く向き合い、美術館を身近なものに感じていただくために、来館者に自分の好きな作品を投票していただきます。

[ふれあいギャラリートーク]

来館者とボランティアが親しく交流できます。 毎週水曜日15:00より

報道関係の皆様には、この展覧会の開催趣旨をご理解いただき、美術館に一人でも多くの方々が訪れるよう、広く伝えていただけたらと願うばかりです。私たちボランティアは、市民と美術館の架け橋として「何度も行きたい千葉市美術館!」となるよう一歩一歩活動を続けていく所存です。

交通案内

- JR千葉駅東口より
 - ・徒歩15分
 - ・千葉都市モノレール県庁前方面行き「よしかわ葎川公園」駅下車徒歩5分
 - ・千葉駅バス乗り場より大学病院行、または南矢作行にて「中央3丁目」下車徒歩2分
- 京成千葉中央駅東口より 徒歩10分
- 東京方面から車で国道51号を千葉市街方面へ。 広小路交差点の近く
- 美術館の地下に駐車場があります

同時開催

『浦上玉堂展』 平成18(2006)年11月3日(金・祝)～12月3日(日)

江戸時代、武士の身から脱藩して各地を遍歴、詩書画琴に親しむ自娛自適な生活を送った最も文人らしい文人、浦上玉堂(1745—1820)。彼が愛した七絃琴など関連資料を含む230点を展示する。

—この資料についての問い合わせ先—

千葉市美術館・学芸課 浅野秀剛

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8 TEL:043-221-2313 FAX:043-221-2316 E-MAIL:asano@ccma-net.jp